

# 便潜血検査で大腸がん死亡減

## がん社会 を診る

中川 恵一

実施しました。同調査ではがん罹患（りかん）数第1位の大腸がんや第3位の胃がんについて、コロナ禍における検診受診状況、受診・未受診の理由、コロナ禍が受診に及ぼす影響などに関して回答を得ました。

大腸がんは40歳以上で毎年、胃がんは50歳以上で2年に1回の受診が推奨されています。今回の調査結果から以下のことが分かりました。

21年度に大腸がん、20、21

新型コロナウイルス感染症拡大はがん検診の受診控えを起し、がん患者数が（みかけ上）減るというショックキングな結果をもたらしました。2020年の検診受診率は、コロナ前と比べて3割近く、21年は多少盛り返したものの約1割の減少となりました。ただ、22年の状況はまだ明らかになっていません。

オリンパスは6月、全都道府県別の40〜60代男女計1万4100人を対象に「がん検診受診に関する意識調査」を

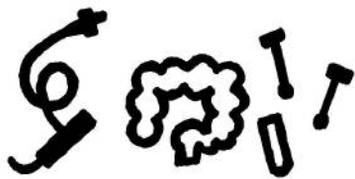


イラスト 中村 久美

年度に胃がん検診を未受診と回答した人は約6割で、そのうち約17%がコロナを理由に受診を控えたことが分かりました。22年度以降の検診受診ではコロナ禍を未受診理由にする比率が減っています。

なお、検診の意義や重要性を理解している人は、コロナ禍でも受診したのに対し、従来から定期的に受診しない人の多くは、受診を控え続けている傾向が確認されました。

がんは症状が出にくい病気です。胃がん、大腸がんでも、早期の段階ではほとんど自覚症状はみられません。しかし、検診未受診の理由として「自覚症状が無いから」との回答が約46%と最多でした。がん検診は絶対調でも受けて頂く必要があります。

一次検査で陽性と判定された人のうち、胃がんで約28%、大腸がんで約20%が精密検査

を受けていませんでした。精密検査の未受診者では、コロナを理由にする人が一定数いたものの、「自覚症状が無いから」がやはり、最多となりました。

がん検診の流れを、大腸がんを例に説明します。男女とも40歳から毎年、検査を受けてもらいます。一次検査は「便潜血検査」で、2日間分の便を採取する方法が推奨されています。

一次検査で陽性となった人には精密検査の受診案内が来ます。精密検査は大腸内視鏡になりますが、一次検査の便潜血検査で陽性になった人のうち、3%程度が大腸がんと診断されます。便を採るだけの簡単な検査を毎年受けるだけで、大腸がん死亡が60%減ることが分かっています。

大腸がん検診を受けていなかった私の義妹は48歳の若さで亡くなりました。コロナでこんな不幸が増えないことを願います。

（東京大学特任教授）